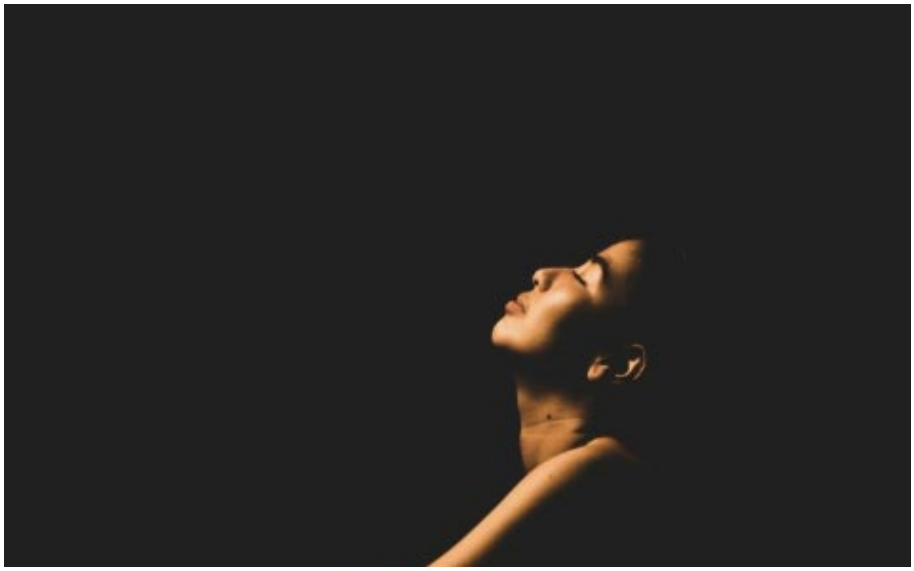
2026 年 11 月 26 日
株式会社フェイスネットワーク

フェイスネットワーク、「GranDuo」「THE GRANDUO」全戸にファイテンと共同開発した照明『健光浴®LED ダウンライト』を標準採用し、「コンディショニング環境」の実装を推進

東京の城南３区エリア（世田谷区、目黒区、渋谷区）を中心に収益不動産の開発を手掛けるデベロッパーの株式会社フェイスネットワーク（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：蜂谷二郎）は、レジデンスにおけるあらたな価値創造として、「コンディショニング環境」の実装を推進しています。このたび、当社は、その取り組みを「FULNESS 2.0」と位置づけ、2027 年３月以降竣工物件より順次、賃貸レジデンスブランド「GranDuo」および高級賃貸レジデンスブランド「THE GRANDUO」の全戸において、ファイテン株式会社（本社：京都府京都市中京区、代表取締役社長：平田 好宏、以下「ファイテン」）と共同開発した『健光浴®LED ダウンライト』を、浴室、洗面室、トイレに標準採用することをお知らせいたします。



【『健光浴®LED ダウンライト』イメージ】

「FULNESS」は、「THE GRANDUO」において、付加価値向上施策の一環として展開してきたコンセプトであり、Well-being の考え方を発展させた「FULNESS（フルネス）」を通じて、「暮らしているだけで心身のエネルギーが満たされ、充実感を得られる体験価値」の提供を目指しています。新たに始動する「FULNESS 2.0」では、『健光浴®LED ダウンライト』の標準採用を起点として、その価値を「GranDuo」ブランドにも広げ、住まう人が意識することなく、日常生活のなかで自然と心身のコンディションを整えられる住環境の実現を目指します。

◆「利便性のある住まい」の次へ

近年、日本では Well-being への関心の高まりを背景に、不調が顕在化する前に、日常のなかで心身のコンディションを整えるという考え方が広がっています。一方で、住宅はこれまで、耐震性能や断熱性能、省エネ性能、IoT・スマートホーム化など、安全性や利便性の向上を中心に進化してきました。

しかし、情報過多や睡眠の課題、ストレスの増加、働き方の多様化など、都市生活者を取り巻く環境は大きく変化しています。当社は、「どこに住むか」だけでなく、「どのような状態で暮らせるか」がこれからの住環境に求められる新たな価値になると考えています。住まいを単なる生活の場所でなく、日々のコンディションを整える場所へと進化させること。それこそが、これからのレジデンスに求められる役割であると考えています。

◆「GranDuo」「THE GRANDUO」が提唱する「コンディショニング環境」

当社が目指しているのは、いわゆる「健康住宅」ではありません。住まいに帰る。入浴する。身支度を整える。休息する。眠る。そうした日常の営みを通じて、無理なく自然に自分らしい状態へと整っていく住環境を目指しています。当社では、身体だけでなく、心や感性、ライフスタイルまで含め、住まいそのものが居住者の日常を支える環境を「コンディショニング環境」と定義しています。

◆「FULNESS 1.0」から「FULNESS 2.0」へ

「FULNESS 1.0」では、「THE GRANDUO」を対象に、空気・水・光・IoT を活用した住環境価値の向上に取り組んできました。全戸・全室（※1）へのナノメタックスコーティング標準採用も、そのひとつです。

そして「FULNESS 2.0」では、『健光浴®LED ダウンライト』の標準採用を起点として、その取り組みを「GranDuo」「THE GRANDUO」の全戸へ拡大します。今回採用するのは、浴室・洗面室・トイレです。これらの空間は、一日の始まりと終わりに利用されるだけでなく、自分自身と向き合い、心身を整える時間を過ごす場所でもあります。当社は、こうしたコンディショニングと親和性の高い空間から住環境価値の向上を図り、住まう人が意識することなく、自然に整う環境の提供を目指しています。

（※1）浴室を除く



◆「FULNESS 2.0」が目指す住環境

「FULNESS 2.0」は、単なる先進設備の導入プロジェクトではありません。住まうことの意味そのものを再定義し、都市生活者のコンディションを支える新たな住環境価値を創造する取り組みです。

今後、当社は、建築、アート、睡眠、美容、食、運動など、暮らしを構成するさまざまな分野との融合を通じて、レジデンスにおけるコンディショニング環境の可能性をさらに広げてまいります。「FULNESS」が目指すのは、人々の 24 時間の質を高める住環境価値の創造です。便利な住まいの次に求められるもの。それは、「整う住環境」です。

当社では、健光浴®技術を、住む人の心身のコンディションに配慮した住環境づくりを支える要素の一つとして位置付けています。単なる設備や機能の提供にとどまらず、居住者が日々をより快適に過ごせる環境づくりを目指し、「コンディショニング環境」の考え方に基づく住まいづくりを推進してまいります。

▼『健光浴®LED ダウンライト』の採用概要

製　　品：健光浴®LED ダウンライト（ファイテン株式会社と共同開発）
形　　態：2027 年 3 月以降に竣工する「GranDuo」「THE GRANDUO」の全戸
箇　　所：浴室内・洗面室・トイレ
開始時期：2027 年 3 月以降竣工物件より順次採用

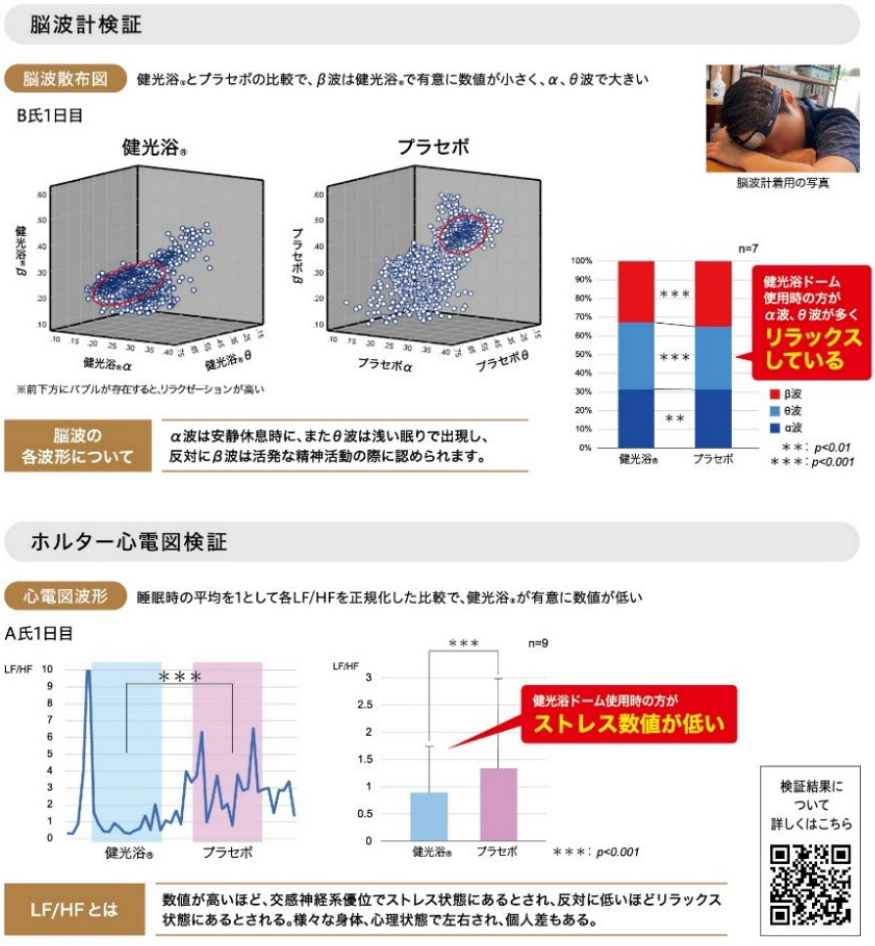
▼『健光浴®LED ダウンライト』について

健光浴®とは、ファイテンが開発した独自の「光テクノロジー」です。同社では健光浴®技術について、休息環境との関連性や身体コンディションへの影響に関する検証を実施しています。



―休息環境に関する検証

ファイテンと脳梗塞リハビリセンターとの共同検証では、健光浴®照射環境下で仮眠を行った際、リラックス時に現れやすいとされる α 波・θ 波の増加が確認されました。また、自律神経活動の指標の一つである LF/HF についても、プラセボ環境と比較して低い傾向が示されるなど、休息環境との関連性が報告されています。(※2)



―身体コンディションに関する検証

ファイテンと脳梗塞リハビリセンターによる共同検証では、脳卒中後遺症による片麻痺がある方を対象に、リハビリ時の筋緊張変化や使用実感に関する検証も実施されています。(※3)

検証動画は
こちら

リハビリ担当療法士
インタビューは
こちら

(※2) 出典：ファイテン株式会社・脳梗塞リハビリセンター共同検証。https://www.phiten.com/official-news/ys-04-sleep/

(※3) 出典：ファイテン株式会社・脳梗塞リハビリセンター共同検証。https://www.phiten.com/official-news/ys-02-bodycare/

鶴埜（つるの） 益巳（ますみ）先生 コメント

脳梗塞リハビリセンター理学療法士・東京有明医療大学非常勤講師



日中の集中力を維持するための方法としてNASAで仮眠(Nap)の研究が行われ、その内容は1995年に公表 1)されました。その後、Power Napという言葉で米国の大企業を中心に導入が進み、日本でも近年取り入れる企業が増えています。その後も研究は進み、昼の時間帯に30分未満の実施でパフォーマンスが向上する 2)ともいわれています。今回の検証はその質を高めることを主眼とし、これまでの検証から確認されてきたPhiten社の技術が筋肉を緩めるとの内容を応用するカタチで実施しました。アウトカムには脳波のα・β・θ波成分とホルター心電図で自律神経系の指標であるLF/HFを用い、リラックスした状態では脳波のα・θ波成分が高まり、β波成分が抑えられ、LF/HFは低下することになります。健光浴®とPhiten技術を用いないプラセボを仮眠中に利用して比較し、健光浴®で良好な結果が得られたため、Phiten技術が休息の質を明らかに高めると確認されました。Power Napでの利用にとどまらず、夜間の睡眠や休息をとりたい様々な場面で、健光浴®は広く、また簡便に活用できると考えられるため、おすすめします。

1)Rosekind MR et al. Alertness management: strategic naps in operational settings. J Sleep Res. 1995; 4: 62-66.
2)Nicholas JN et al. NAPS Fusion: A framework to overcome experimental data limitations to predict human performance and cognitive task outcomes. Inf Fusion. 2023; 91: 15-30.

また、ファイテンパワーテープの貼付と同様に、健光浴シャワーの照射で筋肉が緩むと確認されました。感染症が気になる昨今、セラピストにとっても、ご利用者様にとっても、非接触で安全に利用できるのは大きなメリットと考えられます。また「テープかぶれが心配」という方にはこちらの利用をお勧めします。私達は多くの脳卒中のご利用者様のリハビリに取り入れ、必要に応じて「欲しいところに・欲しいタイミングで」使用することで、軽く、スムーズな動きをサポートし、ご実感いただきながらトレーニングを行っています。脳卒中のような麻痺によって身体の力みが強くでる方々だけでなく、肩こりや腰のこりなどの異なる理由で不要な力みのある方々にも使用し、ほぐれた状態からトレーニングを行っています。また、自主トレーニングとして固くなりやすい筋の自己管理にも活用いただいています。

岡安（おかやす） 泉（いずみ）氏 コメント

FULNESS | HUMAN CENTRIC LIGHTING DESIGN CODE監修
照明デザイナー



光は、空間を照らす設備であると同時に、人の行動や生活リズム、日々のコンディションに関わる住環境の一部です。
私が策定に関わった「FULNESS1.0」に導入されている、サーカディアンリズムに基づいた「FULNESS HUMAN CENTRIC LIGHTING DESIGN CODE」では、空間をどのように見せるかではなく、人がどのような状態で過ごせるかを重視しています。
特に浴室や洗面室は、自分自身と向き合う時間を過ごす場所であり、住まいの中でもっともコンディショニングとの親和性が高い空間です。
FULNESS2.0で提唱する「コンディショニング環境」は、住宅の価値を広さや設備だけでなく、“どのような状態で暮らせるか”という視点へ拡張する新しい住環境提案だと考えています。

◆投資家向けサイト（一棟販売）
一棟販売用サイト： https://faithnetwork.co.jp/project/

◆入居者向けサイト（賃貸募集）
THE GRANDUO：https://thegranduo.com/
ＧｒａｎＤｕｏ：https://3kumiraie.jp/

■会社概要
会　社　名：株式会社フェイスネットワーク
会 社　ＨＰ：https://faithnetwork.co.jp
住　　所：東京都渋谷区千駄ヶ谷４丁目 23 番５号 Daiwa 千駄ヶ谷ビル
代　表　者：代表取締役社長　蜂谷二郎
事 業 内 容：不動産業／建設業／一級建築士事務所
（城南３区にワンストップサービスで新築一棟 RC マンションを提供する不動産投資支援事業を展開）
証 券 コ ー ド: 東証スタンダード市場 3489

■株式会社フェイスネットワークについて
フェイスネットワークは、住みたい街として人気の東京 城南３区エリア（世田谷区、目黒区、渋谷区）を中心に、主に新築一棟 RC マンションによる不動産投資支援事業を展開しています。土地の仕入れから、設計、施工、物件販売、賃貸の入居者募集、物件管理に至るまで、全ての業務を自社で担うワンストップサービスを提供し、独自ブランド「GranDuo（グランデュオ）」、「THE GRANDUO（ザ・グランデュオ）」を展開しています。これまでに合計 300 棟以上の新築一棟マンションをプロデュースし、城南３区エリアにおける新築一棟 RC マンションの竣工棟数は No.１*です。(*㈱建設データバンクのデータを基に自社調べ/2026 年９月末時点) 投資用不動産の活用を通じてオーナー様の夢の実現をサポートするとともに、デザイン性と居住性を両立したレジデンス開発を通じて、入居者様の理想のライフスタイルの実現をサポートしています。

■ファイテン株式会社について
1983 年の創業以来、「すべては健康を支えるために」というポリシーを掲げ、あらゆる人の健康をサポートしてきました。オンリーワンの技術開発に力を注ぎ、金属をナノレベルで水中に分散させる「アクアメタル技術」を活かし様々なストレスケア・ボディケア商品を世に送り出しています。世界各国で 100 以上の特許取得の実績があり、一般の方からトップアスリートまで大きな信頼を集め、その商品力は世界でも高い評価を受けています。

【お問い合わせ先】
ファイテン株式会社　広告宣伝部：福島／古田
MAIL：pr@phiten.com

【本プレスリリースに関するお問い合わせ】
株式会社フェイスネットワーク 広報企画部 広報担当　鶴間（ツルマ）、細田（ホソダ）
TEL：03-6804-5837　MAIL：press@faithnetwork.jp